

予防接種スケジュール

予防接種を受ける時期が異なる理由



予防接種はなぜ必要なのですか？

予防接種は予防できる病気から身を守るための安全で効果的、かつ簡単な手段です。ワクチンは乳児から高齢者まで全ての人たちに、さまざまな人生の段階で受けることが推奨されています。

ワクチン接種を受けることは、自分の身を守るだけでなく、高齢者、妊娠中の人、基礎疾患のある人、乳幼児など、感染すると重症化するリスクが高い人々への感染を防ぐことにもなります。ワクチンは年齢、健康状態、病歴などに基づいて推奨されており、旅行する場合や職場、保育園や学校でも義務付けられていることもあります。

ワクチンによっては、一定期間後に複数回の接種やブースター接種が必要になるのはなぜですか？

各ワクチンは、最小限の副反応と最大限の有効性で、それぞれ特定のウイルスや細菌に対する強力な免疫反応を起こすように設計されています。そのため、予防効果を維持させるために異なる予防接種スケジュールやブースター接種が必要になるのです。

インフルエンザワクチンや新型コロナワクチンなど、一般的で危険なウイルス株に対応できるように定期的に更新される必要があるものもあります。妊娠中の方や免疫不全症の方は、予防効果を維持させるために追加接種が必要な場合があります。

どのワクチンを受ける必要がありますか？

あなたやあなたのご家族に推奨されている予防接種について、かかりつけの医師にご相談ください。最も一般的なワクチンをいくつかご紹介します：

インフルエンザワクチン: インフルエンザにかかるリスクを減少させるために、特に秋頃に、このワクチンを毎年1回受けてください。65歳以上の方、または18~64歳の方で、臓器移植を受け、免疫抑制剤を服用している場合は、高用量インフルエンザワクチンについて医師にお尋ねください。

新型コロナワクチン: このワクチンは、新たに発生する変異株に対応するために、随時改良されます。改良型の新型コロナワクチンを少なくとも1回接種することが、生後6ヶ月以上のすべての人に推奨されています。新型コロナワクチンの最終接種日から少なくとも2ヶ月経過してから改良型の新型コロナワクチンを受けてください。



(Japanese)



COUNTY OF LOS ANGELES
Public Health

予防接種スケジュール

予防接種を受ける時期が異なる理由



肺炎球菌ワクチン: 子どもや大人に深刻な感染症を引き起こすことのある数種類の肺炎球菌を予防します。4回接種の小児用肺炎球菌ワクチンを5歳までに済ませることが推奨されています。年上の子どもや成人は推奨されている通りに受けてください。

水痘(水ぼうそう)ワクチン: 子どもたちに2回に分けて接種が行われます。水ぼうそうにかかったことがない13歳以上の子どもにも推奨されています。

帯状疱疹ワクチン: この2回接種ワクチンは、高齢者の帯状疱疹を予防し、最大限の予防効果を得るために2~6ヶ月間隔をあけて行われます。過去に水ぼうそうにかかったことがある場合でも、50歳以上の方に推奨されています。1回接種のZosterワクチンをすでに受けている場合は、医師にお問い合わせください。

Tdapワクチン: このワクチンを1回打つことで破傷風、ジフテリア、百日咳を予防します。10年毎にブースター接種が必要になる場合があります。

RSウイルスワクチン: 75歳以上の方は、このワクチンを1回接種することでRSウイルス(respiratory syncytial virus)を予防します。60~74歳の成人でRSウイルス感染症の重症化リスクの高い人にもRSウイルスワクチンを1回接種することが推奨されています。また、妊娠している方や乳幼児はRSウイルスに対する追加接種を受けることができます場合があります。推奨事項について医師にお尋ねください。

B型肝炎ワクチン: 2回または3回に分けて接種するワクチンで、全ての人に推奨されています。60歳以上の方はこのワクチンを接種することについて、かかりつけ医にご相談ください。

どのワクチンを受ける必要があるか、あるいはブースター接種が必要かなどについては、かかりつけの医師にご相談ください。推奨されているワクチン接種のリストはこちらからご覧ください:

www.cdc.gov/vaccines.



公衆衛生局コールセンター

詳細情報は、公衆衛生局コールセンターまでお問い合わせください。

1-833-540-0473 (年中無休、受付は午前8時から午後8時まで)